

聖書日課 『からし種』 2024.8.18-8.25

<p>8月18日 (日) エレミヤ 6章</p>	<p>「見よ、一つの民が北の国から来る。大いなる国が地の果てから奮い立ってくる」(22節)。エレミヤは北からの災い、大いなる滅びがやってくると告げた。歴史の支配者である神が北の国を用いて、エルサレムを打つというのである。それはエルサレムの民が神の言葉に耳を傾けなかったからだ。私たちは神の言葉を聞き、平安を祈りたい。</p>
<p>19日 (月) エレミヤ 7章</p>	<p>「皆、主の言葉を聞け」(2節)。これはエルサレム神殿に集まってきた人々に語ったエレミヤの説教のようだ。異教の神々に従うのではなく主なる神の言葉を聞け、と。今、ユダの国はアッシリアからの侵略が始まろうとしていた。エレミヤは神の言葉に聞き従えば民は守られる、と主張したいのだろう。私たちは神との正常な関係を保ちたい。</p>
<p>20日 (火) エレミヤ 8章</p>	<p>「我々が主に罪を犯したからだ」(14節)。敵の攻撃を受けて苦しんでいる民の言葉。「平和を望んでも、幸いはなく／いやしのときを望んでも、見よ、恐怖のみ」(15節)。エレミヤが何度もこうなるから主に立ち返って主の言葉に聞き従いなさいと語ったのに、無視した結果のことが起きている。神の言葉を大切にする信仰者になりたい。</p>
<p>21日 (水) エレミヤ 9章</p>	<p>「何故、この地は滅びたのか。焼き払われて荒れ野となり／通り過ぎる人もいない」(11節)。どうしてこうなってしまったのか、「主は言われる。『それは、彼らに与えたわたしの教えを彼らが捨て、わたしの声に聞き従わず、それによって歩むことをしなかったからだ』」(12節)。主は私たちにも目覚めて主を知ることを求めている。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.8.18-8.25

<p>22日 (木) エレミヤ 10章</p>	<p>「主はこう言われる。異国の民の道に倣うな」(2節)「主は真理の神、命の神、永遠を支配する王」(10節)。木工がのみを振って造ったものや、金銀で飾られ、留め金をもって固定され、身動きもできないものが神であろうか。異国の民はこのようなものを拝んでいるが、英知をもって万物を造られた方は主なる神ではないか。主に従おう。</p>
<p>23日 (金) エレミヤ 11章</p>	<p>「あなたたちはわたしの民となり、わたしはあなたたちの神となる」(4節)。出エジプトの時、主はイスラエルの民にこう語りかけた。なのに他の神々やバアルを拝むことになる。その結果、主から厳しい叱責を受ける事に。私たちの信仰生活も「神と私」との関係である。こちらの状況がどんな時も、神のみ言葉を聞き、従っていきたい。</p>
<p>24日 (土) エレミヤ 12章</p>	<p>「なぜ、神に逆らう者の道は栄え／欺く者は皆、安穩に過ごしているのですか」(1節)。神に従うことをしない多くの人が栄えているのを見て、なぜ、と問う。しかし、それは一時の事で主の栄光の道ではない。今がどんな時でも神が示されたキリストの贖いをいつも覚えて、み言葉に聞き、祈りの生活を続けていこう。主が共におられる。</p>
<p>25日 (日) エレミヤ 13章</p>	<p>「あなたたちが聞かなければ／わたしの魂は隠れた所でその傲慢に泣く。涙が溢れ、わたしの目は涙を流す。主の群れが捕えられて行くからだ」(17節)。バビロンによるエルサレムの陥落を幻に見たエレミヤの涙に、その約600年後、エルサレムに近づいて都を眺めたイエスの涙が重なる。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら...」(ルカ19:42)。</p>